



○【ご挨拶】 3月になって春が近づいてきました。来月の4月から平成27年度が始まります。皆様引き続きよろしく申し上げます。

【1】労働契約法の「有期雇用→無期雇用」の転換のルールをご存じですか？

労働契約法という「労使の紛争ができるだけ起こらないように」という点に主眼を置いている法律があります。その中で「有期雇用の期間が合計で5年に達した場合、無期雇用へ転換」する旨の規定が平成25年4月からスタートしました。平成25年4月からの有期雇用の期間が対象となるため、平成30年4月から無期雇用の転換の規定に該当する人がでてきます。人事労務管理や就業規則の見直しが必要になる可能性があり、当事務所へのお問い合わせも増えてきています。会社の方向性など、徐々に検討されることをお勧めします。

【2】平成26年11月に安全衛生に関する改正がありました。

安全衛生については、労働者の健康障害防止のために有害な物質ごとに厚生労働省が定める「規則」によって取扱い方法が決められています。平成26年11月に「有機溶剤中毒予防規則」で規定されていた有害物質「クロロホルム、トリクロロエチレン」や胆かんガンの原因となる「ジクロロメタン」について、発がん性物質などを規定している「特定化学物質障害予防規則」で扱われることとなりました。これらの規則は、作業場での取り扱い方法、排気設備の点検、健康診断項目などが定められています。働く人が仕事が原因で病気を発症しないためにも、内容を理解しておきたいものです。



～ちょこっとコラム～

昨年末に約20年ぶりに関西方面を旅行してきました。以前の旅行では、食べ物屋さんはずらりと並んでいて、お好み焼きがおいしかった！という印象が強かったのですが、大阪は相変わらず食べ物がおいしい場所でした。

そして、ずっと行きたいと思っていた奈良の大仏も見てきました（修学旅行以来）。大仏様の大きさもさることながら、東大寺の入り口に構えている南大門も非常に大きくて圧倒されました。重機のない時代に、どのような技術でこれほど大きな門が造れたのだらうと思ったり。

学生時代、歴史の勉強といえば、世界史も日本史も年代と出来事を覚えることばかりに時間を使っていて、今にして思えば時間ももったいなかったなあ、とやや反省。歴史的な物や書物に触れたら、当時の状況に想像力を働かせて、現代にどのようにつながっているのか、考えるきっかけにしたいと思います。



奈良の東大寺の鹿です。
人なつこさも変わらずでした。



働く人の法律問答

… 有給休暇は何日付与すればよいの？ …



マツ社労士は、タケ社長からこんな質問を受けました。

タケ社長 : 有給休暇について、あらためて聞きたいのですが。有給休暇は、どのようなタイミングで付与すればよいのかな。

マツ社労士 : 入社後、半年経過したら初回の付与日が来ます。例えば4月1日に入社した人について、その後半年間、当初予定していた出勤日の8割以上出勤した場合には、10月1日に有給休暇の権利が発生します。

タケ社長 : 半年たったら、有給休暇が何日発生するんだい？うちの会社は、週5日、1日8時間のフルタイムで働く人と、週3日、1日5時間働く人がいますよ。有給の日数はどのように計算するかな。

マツ社労士 : 有給休暇は、出勤日数や勤務時間数によって異なります。週5日出勤の人と、週30時間以上の人については、半年経過後の有給休暇は10日です。週30時間未満であって、出勤日数が週4日以下の人は、比例付与制度といって、10日より少ない日数からのスタートとなります。表にすると次のとおりです。

		雇入れの日から起算した継続勤務期間の区分に応ずる年次有給休暇の日数						
週所定労働時間	所定労働日数	6カ月	1年 6カ月	2年 6カ月	3年 6カ月	4年 6カ月	5年 6カ月	6年 6カ月以上
30時間以上		10日	11日	12日	14日	16日	18日	20日
30時間未満	5日	10日	11日	12日	14日	16日	18日	20日
	4日	7日	8日	9日	10日	12日	13日	15日
	3日	5日	6日	6日	8日	9日	10日	11日
	2日	3日	4日	4日	5日	6日	6日	7日
	1日	1日	2日	2日	2日	3日	3日	3日

タケ社長 : なるほど。付与日数が出勤日数に比例しているんですね。ところでうちの会社は子育てしながら務めている人が多いので、保育園のお迎えや小学校の行事のために、時間単位で有給がほしいという要望があるのですが、そのような有給休暇の与え方をしてもよいのでしょうか。

マツ社労士 : 労使協定といって、労働者代表と使用者が話し合っただけで協定を結ぶことによって、1年間に、職員各人が持っている有給休暇の5日分までは時間単位の有給休暇の付与が可能です。

【編集後記】 定期的に本を読みたくなる時期がやってきます。特定の分野を知りたくて本をさがそうと思ったときは、一般の人がインターネットに書き込んでいる書評を参考にしています。本好きな人は書くことも好きな人が多いのか、書評自体が惹きつけられる文章になっていたりして、書評ばかりをひたすら読み続けてしまうこともあります。ある人が「本って、ホントに費用対効果が高い！」と言っていたけれど、「この分野を何十年も研究しています」とか「長年仕事で携わってます」という人が本という形にまとめて公表してくれて、普段の生活では知り得なかったようなことを知ることができて、おそらくこのこと自体がとても有り難いことなのだと思います。